

稲山会 通信

第24号

2012年1月7日発行

発行人：斉藤雄二 発行所：稲門山の会事務局 TEL03-3367-3723 FAX03-3367-8150 ©稲門山の会1998

平成24年を迎えるにあたり

ひとつのことに関わり、これを継続してゆくことは素晴らしいことだと思う。成長も挫折もあるが、長い時をかけて培ってきたものが力となり、財産ともなりうるからではなからうか。

過日、中学の同期会に出席した。当然ながら皆な同じ歳である。卒業して60年の生き方の違いが現れていて、興味深かった。

会場にいてふと違和感を覚えた。確かに一緒にいて、それぞれ60年前の面影を探しあてた時の驚きと喜びに出会うことができ、それはそれで楽しい時間ではあった。これは過去を共有した者どうしの確認の場だけであったのだ。何か違うと感じたのは、過去を求めるだけで、現在が希薄だったのである。

稲門山の会も55年の時が流れたが、山に登るという行為は続けられてきた。会の中にも同期会はある。山登りを介して人との関わりを継続してきた集いには、大いに魅力的なものを感じる。

同じ興味を持つ者が集まり、時間をかけて作り上げてきたものが、この会には沢山ある。これが伝統ということではなからうか。伝統というならば、いまして輝くものにしたいではないですか。

過去を懐かしむだけでは、いかにも寂しい。

2012年1月

稲門山の会代表 上田訓央



▲上田代表の山の神への祝詞：2011年・秋のキャンプにて



▲和田OBも参加：2011年・秋のキャンプにて

2012年度新年会・年次総会のご案内

昨年3月11日の未曾有の東日本大震災で我々のOB諸氏8名が宮城県、福島県、茨城県に在住し、それなりの被害に遭われましたが、日常に戻っておられるとの事です。

しかし福島県田村市に在住されていた木場OBは現在東京におられます。

この大震災から我々日本人が忘れかけてきた「きずな」とか「思いやり」が如何に大切かを再び心から認識した次第です。我々「山の会」は学生時代からの山登りを通じて培った「きずな」・「友人への思いやり」を先輩・後輩ともどもこれからも大切にしてゆきたいと考えております。

今年の新年会・総会にはOBGの皆様が同期の仲間、先輩、後輩にお声を掛けて戴き、楽しい集いと致したく、皆様にご出席をお願い申し上げます。

また出来ましたら、旧研究部の仲間の皆様にもお声を掛けて下されば幸いです。

新年会・総会は2012年2月4日（土）午後3：00から恒例の大隈会館です。

別途に「新年会・総会のご案内」と出欠の「返信ハガキ」が同封してあります。

稲門山の会役員会

ゴルフコンペのご報告

吉田稔OBが理事長に就任されたのを祝い、栗又功男OBの呼びかけで、山の会OBによるゴルフコンペが2011年8月29日に浜野ゴルフクラブ（名門です）で行われました。参加者は吉田OBの奥様と、OBの関係者2名を含め12名でした。写真右から吉田稔OB（S38年卒）・東正躬OB（S37年卒）・小松雅美OB（S34年卒）・滝沢信一OB（S36年卒）・新井昭夫OB（S46年卒）・宇野澤虎雄OB（S38年卒）・栗又功男OB（S38年卒）・斉藤雄二OB（S41年卒）・丹治和男OB（S44年卒）です。後ろの2名はOBの関係者の方々です。吉田OBの奥様はプレー後帰宅されました。優勝者は???



▲浜野GCコンペ参加者：全員集合

斉藤雄二記

2011年秋のイベントご報告

今年は山の会創立55周年を記念して、我ら心の故郷八ヶ岳山麓にて開催致しました。

10月1日（土）午後、参加者（22名）全員が千露里庵に集合、16時半には予定通り井村副代表の挨拶から始まり、恒例になりました上田代表の山の神への祝詞の奉納、吉田副代表の乾杯の音頭で懇親会が開会いたしました。

その晩は九州から参加された和田OB、地元在住の森OBも加わりキャンプファイヤーを囲み、

手配したビール、焼酎に加え、OBから寄贈頂いたワイン及び越乃寒梅を飲みながら秋の夜長を楽しむことができました。

翌日は6時に起床、朝食後千露里庵の掃除を済ませ、9時には自由行動組・飯盛山組・赤岳組に分かれ各々山荘を後にしました。

○自由行動組

メンバー：和田（33年卒）上田、三ツ木（34年卒）白倉、栗又（38年卒）森（48年卒）の計6名の方々でした。

清里付近を散策されたOB、足を延ばされ北アルプスの涸沢に向かわれたOBもいらした様です。



▲千露里庵にて：全員集合

○飯盛山（1643m）登山組

メンバー：L松村（48年卒）西山（36年卒）加納（37年卒）鈴木（40年卒）青山（45年卒）林（48年卒）の計6名の方々でした。

コース：清里駅～平沢登山口（9：25）～飯盛山（10：30）～平沢山（11：00）～平沢登山口（12：30）

八ヶ岳を中心としたフォッサマグナの雄大な景色を楽しみ、電車組は小淵沢駅発14：36のあずさ20号で帰宅。



▲飯盛山山頂にて：全員集合

○赤岳（2899m）登山組

メンバー：L齋藤延（45年卒）清水（36年卒）吉田（38年卒）井村、笠原（40年卒）齊藤雄、金子（41年卒）新井、島田、福田（46年卒）の計10名の方々でした。

コース：10/2 千露里庵～美濃戸口～美濃戸発（12：00）～柳川北沢を経由して赤岳鉱泉着（14：00）
10/3 山荘発（6：45）～地藏尾根を経由赤岳頂上着（10：18）～文三郎道経由行者小屋着（12：50）～赤岳鉱泉經由美濃戸着（15：10）美濃戸口（15：50）解散



▲赤岳にて：全員集合

甲斐大泉駅から美濃戸まではマイカーで移動。赤岳鉱泉には予定通り到着し素晴らしい食事をいただき、お風呂に入ることもできました。翌日も天候に恵まれ、学

生時代を思い出しながら楽しい登山が出来ました。10名のOBの方々が参加されるとは思っていませんでした。

～皆さんお元気ですね～

齋藤延雄 (S45年卒) 記

投稿「アンナプルナ、ダウラギリを望むトレッキング」

佐久間正昭 (S43年卒)

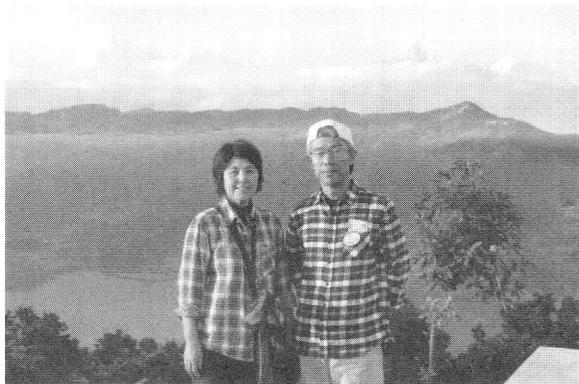
2010年11月6日深夜0時20分、国際線が就航して間もない羽田より、妻、会社時代の友人、アルパインツアーのTLの4人で出発。バンコクで大阪秀稜会の仲間6人と合流した後、カトマンズを經由、その日の午後一気にポカラまでたどり着く。今回の山行は友人が所属する大阪秀稜会の50周年企画に誘われたものである。メンバーの何人かは既にネパールの経験があるが、サービスはアルパイン社に委ね実施にこぎつけた。

さて、ポカラのホテルへ荷物を置いて直ぐ向かったのが「ワールド・ピース・パコダ」。車を降りて丘を登り、視界の開けたところで皆思わず「ワーッ」と叫ぶ。眼下にフェワ湖を見下ろし向こうには「魚のシッポ」を意味するマッターホルンに似た山容のマチャプチャレを挟み左右にアンナプルナ山群が広がる。夕刻なので山がうっすらと赤く染まってくる。見飽きることがない。

翌日からいよいよトレッキングスタート。車でナヤプルまで行き、シェルパ、キッチンスタッフ、ポーター達総勢27名と合流。我々のダッフルは竹の背負い籠に入れて運んでくれるので各自は小型ザックだけ持てばよい。シェルパはしっかりした服装で荷物は持たず、ポーターはTシャツ・サンダルで竹籠の紐を額につけて山道を歩く。身分の違いは歴然としているようだ。昼食はいつも先行したキッチンスタッフが作って待っていている。まるで大名旅行。これでいいのかなと思うがこういうものらしい。



▲ダウラギリを背景に全員集合



▲ピース・パコダの丘からフェワ湖を背景に：背後の山はアンナプルナ・マチャプチャレ

2日目にはゴラパニ峠 (2,895m) へ。峠にはいくつかのロッジがあり、翌朝5時待望のプーン・ヒル (3,194m) へ向かう時にはヘッドランプが連なっていた。丘の上は360度の展望、眼前にダウラギリ、右手にアンナプルナ・サウスが大きい。少しずつ明るくなり頂きに陽が当たる。8000mの山が余りに近く見えるのが不思議な感じだ。ポカラからジョムスンへ行く軽飛行機が山の中腹を飛んでいるのが面白い。

4日目、タトパニでヒマラヤの温泉を楽しん

だ後、おんぼろバスとジープを乗り継ぎカリガンダキ川沿いを遡る。窓際の席は谷を見下ろし生きた心地がしなかったというが、当方はひどい揺れの中でうつらうつら、湯冷めで風邪を引いてしまう。5日目、3000mのティティガオン村へハイキング。6日目、ナウリコットの展望ロッジへ行き連泊。セコン湖(2,725m)の往復ハイキングではニルギリ(7,061m)が近く、アンプルナI峰(8,091m)も奥に見える。

7日目、最終地のジョムソンではティニ村の丘(3,300m)に登り、ニルギリを北側から見る。直線で8km、正に歩けば行けそうな感覚だが、錯覚に過ぎない。その夜はシェルパ達と最後のパーティ、互いに歌や踊りを披露して、別れを惜しんだ。

道中、シャクナゲの林で蝉が鳴いており、抜けると稲穂(実は稗)の揺れる中、高く伸びた木の先に桜が咲いているという不思議な光景に出会った。(以上)



▲セコン湖で：ニルギリを背に

創立55周年記念企画 わが忘れがたき山行

役員会

会員の方々に忘れがたき三つの山行(登攀ルートを含め)問い、その山行の思い出、あるいは山への想いをコメントしてもらいました。報告していただく方々は、役員会で勝手に決めさせていただきました。コメントは200字以内とお願いしましたが、皆様、200字では苦戦されたようです。200字に何とか抑える人、200字は気にしない人、山の会の個性そのもので、楽しい編集でした。コメントは思い出という形で載せました。なお納見OBの思い出②は編者宛てに送られた別紙の思い出を、編者の判断で載せました。

氏名：上田訓央(昭和33年卒)

山行：①昭和30年代 20歳中 積雪期：不帰II峰正面壁

②昭和50年代 40歳後 夏季：北岳バットレス中央稜

③平成10年代 60歳中 夏季：劔岳別山尾根

思い出：山行にも登り方がいくつかあるが、私は岩のあるところが好きだった。岩の持つ姿、形、性質などが、皆違って、どうしたら仲良くなれるか、こちらの接し方次第では、時には優しく、時には厳しい面を向けてくるところが面白い。そこに接する時には、常にある種の緊張感が伴う。上手くゆけば達成感にもつながる。好きになった理由である。ということで上記は自分の中で色あせない山行です。

氏名：納見明德(昭和34年卒)

山行：①1957年3月 山の会初山行の天城山縦走

②1957年7月 飯豊山集中登山小国口ルート

③1960年5月 残雪の鹿島槍ヶ岳東尾根

同行者：小松雅美・宮野準治

思い出1：②小国口ルートを三田洋二先生、市村栄一君、納見明德で登った。増水の梅花皮沢を渡渉、川の中からザックを背負って大きな岩に飛びついた瞬間、ピッケルを流失。石転び沢では飛下する雪塊に襲われた。十文字鞍部と烏帽子岳の稜線を目指してヤブを登るも、ブッシュの斜面でピバーク初体験。青稲会から借りたテントをかぶり、一夜を明かす。キュウリと夏みかんの夕食。翌日、笹竹の上を先生はアイゼンを着けて登る。54年前の山行です。

思い出2：昭和30年代前半は登山装備が悪かったです。飯豊山に持参した借用の石油ストーブは発売直後の国産品で、ラジウス（スウェーデン製）のイミテーションでしたが、性能悪く、低い気温の中で気化せず使えなかった。お湯が沸かせず、野菜と果物をかじっていました。リーズナブルな寝袋は、朝鮮動乱で戦死したGIの遺体をドライアイスを入れて運んだもので、アメ横で沢山売られていました。私も現役中は利用していました。

氏名：宮野準治（昭和35年卒）

山行：①1958年2月：八ヶ岳・阿弥陀岳南稜ルート（会山行） 同行者：納見明德・東正躬

②1958年10月：前穂高四峰正面・北条・新村ルート（個人山行）

同行者：松本桂一・中村郷士

③1964年6月：エクアドルアンデス・アルタール主峰オビスポ初登頂（稲門山の会山行）

同行者：角田武夫・村田進・早川正・青木一隆・松村啓之亮・小林伸吉

思い出：私の山行・登攀経験における共通点は、すべて登攀同行者との一体感でした。特にアルタール主峰オビスポの登頂隊員からの「今頂上です」のトランシーバーを通じての声は、メンバー全員に一体感をもたらした生涯忘れられない私の宝です。その一体感のために同行者名を書きました。

氏名：清水保宏（昭和36年卒）

山行：①1959年7～8月：夏合宿 雲ノ平集中・餓鬼岳パーティー

②1960年 3月：生物部・部山行 剣山・石鎚山・瓶が森

③2009年 5月：トカラ列島・中之島・御岳

思い出：①餓鬼岳パーティーは20名のうち新人が14名、笠ヶ岳まで無事踏破し、リーダーとしての苦労と喜びを味わった。②瓶ヶ森山頂（1879m）で吹雪による停滞後、霧が晴れた白銀の氷見二千石原での霧氷、笹原、白骨樹、石鎚山それに眼下の瀬戸内海の素晴らしい景色は忘れられない。③目標とする日本の島、最高峰、ベスト10の一つ、トカラ中之島の御岳（979m）は遠い。山頂の噴気孔の先に、隣の口の島や太平洋が眺められる。本年（2011年）は御蔵島の御山に登ったので、残るは八丈富士。

氏名：滝沢信一（昭和36年卒）

山行：①1959年2月：裏磐梯（一切経山→安達太良山）スキー縦走

②1972年6月：ペルーアンデス・チェンチェイ峰（6222m）登頂

③2008年6月：アラスカ・マッキンリー挑戦

思い出：①山の会時代に最も苦労した山行で忘れられない。②十日町山岳会の隊長として参加。日本隊としては初めての登頂になった。③5800mで右手指凍傷のため、アタック途中で断念。

氏名：恩田和夫（昭和37年卒）

山行・思い出：～還暦過ぎでの「爺さんの独り山旅」から～

①1999年7月：羅臼岳

「国後の 高嶺浮かべる 雲海は 海峡埋めて この峰に続く」

②2000年10月：鳥海山

「小屋番と 薪をくべつつ 酌み交わす 明日の紅葉を 語り合う焼酎(さけ)」

③2001年7月：トムラウシ山

「降る星を 見上げ疲れて テント閉じ 雪消の水音 枕元に聴く」

④2002年8月：水晶岳

「最奥の 高みに座して 夏雲の 湧き立つさまを 飽きず眺める」

⑤2005年9月：徳本峠～霞沢岳

「喘ぎつつ 夕映え見んと 出た峠 穂高の峰は 雲通る道」

氏名：打矢之威（昭和37年卒）

山行：①1998年6月：アメリカ・オレゴン州 MT HOOD (3700m)

②2006年7月：オーストリア・グロスグロックナー山 (3400m)

③2011年5月：熊野古道・奥駈順峯（熊野神社～玉置山～釈迦ヶ岳縦走）

2011年11月：八径ヶ岳と山上ヶ岳

思い出：①アメリカ・オレゴン州ポートランド市駐在時、友人のアメリカ山岳会員グレイグチズム氏と登山。②オーストリアウイーン市駐在時、稲山会会員の納見・真下・松本氏と登山(私は途中で脱落)。③稲山会会員の笠原氏と順峯釈迦ヶ岳まで。早大ワンダーフォーゲル部OBの立田好夫氏と八径ヶ岳と山上ヶ岳。

氏名：松村啓之亮（昭和38年卒）

山行：①1962年11月：乗鞍岳雪上訓練合宿

②1964年6月：エクアドル・アンデス遠征

③2002年：退職後に登った全ての山々

思い出：①は勿論ロマンチックな思い出の山ではありません。中村君を失った悲しい合宿です。哀切の気持ちと慙愧の念は、下山の朝の美しい乗鞍の姿と共に、心から失せることはありません。②海外の山・氷河・5000mでツエルト1枚でのピバーク等、初めてのことはわかりでした。③夏も積雪期も小屋泊りになりましたし、低山のハイキングや日本一の混雑の夏の富士山にも登りましたが、それはそれで楽しい山登りです。

氏名：吉田稔（昭和38年卒）

山行：①2004年8月：ホイットニー山 (MT WHITNEY IN USA 4418m・14494ft)

思い出：39年卒の真下健弥と急に思い立って、登頂・入山許可証をもらい、登山口で泊る。8月26日、AM2:00に出発して9:50に頂上



▲ムーンライト・シーカーのロッジからダウラギリを望む

に到達。PM 3:50にキャンプ地のホイットニー・ポータルに帰着した。ホイットニー山は、マッキンリーを除く、北米の最高峰。その後2度登る。

氏名：秤 勤（昭和39年卒）

山行：①1960年5月：大学1年 新人合宿・北八ヶ岳

②1960年10月：大学1年 個人山行・飯豊山

③1965年9月：社会人2年 個人山行・谷川岳・一ノ倉沢烏帽子奥壁

思い出：随分と籤運がいいなあと思いながら、WMS50年誌や写真を引っ張り出して、ページをあちこちめぐり、懐かしい想いです。新人合宿には翌週の授業の教科書をザックに詰め込んだことなども思い出しました。飯豊山で覚えた歌を福井さんの下宿で披露したら、松村さんが喜んで録音しましたっけ。大きな転機となってしまった一ノ倉沢烏帽子。50年誌を改めて読んでみると、自分は山好き4分、人好き6分だったのかと思います。

氏名：宮内隆輔（昭和39年卒）

山行：①1956年8月：奥多摩一大菩薩一滝子山 3泊8日

②1961年7月：山の会夏合宿・北アルプス全山 16日間

③1993年8月：キリマンジャロ 10日間

思い出：①中学卒業記念にテントで縦走。焚き火が出来ず、生煮えの米をかじって、それが縁で滝子山の麓に山小屋を建て40年。②60キロのザックに、到底登山は無理と思えど参加。スタートから不帰岳までの4日間意識なく、いまだに腰にできたザックずれ痕は消えず。③同期の「思いつきアフリカ探検隊」で一般コースでなく南稜を、1日20時間の登山に、凍傷・高山病などで苦勞。

氏名：齋藤洋任（昭和40年卒）

山行：①1956年8月：北ア大滝山登山

思い出：中学3年の夏休みに早稲田の英文科卒の山好きのM先生に連れられて、徳沢にキャンプに行きました。海辺育ちの私には「日本にもこんな素晴らしい場所があるのだ！」と言う驚きと歓喜の日々でした。そんな感動体験の中で、今でも脳裏に鮮明に焼き付いているのが、大滝山の頂上から見た槍穂連峰の雄姿です。何故か「あの山に登ろう！」これが私の山登りの始まりです。あれから55年、純一無雑な14歳の少年のあの時の感動が忘れられず、腰痛を気にしながら、山に思いを馳せる今日この頃です。

氏名：井村英明（昭和40年卒）

山行：①1973年8月：コロンビア・アンデス・コクイ山群プルピト峯（5220m）

②1965年2月：積雪期・甲斐駒ヶ岳・摩利支天南山稜

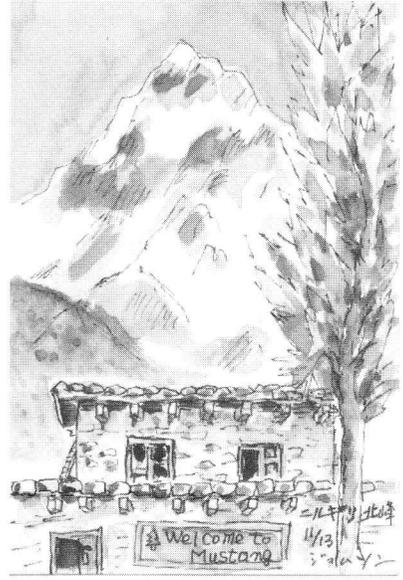
③1965年9月：谷川岳・一ノ倉沢烏帽子奥壁

思い出：①プルピト峯はBCから氷河壁の上に優美な峯があった。私と宇田隊員が偵察し、右の稜からのルートを見出し、当時最強の豊田・平井隊員が登頂。第2登？②仙水峠から見る南山稜は長大なスカイラインの稜で、岩と雪と灌木交じりの登攀に終始。早朝に登攀開始、魔利支天の頭に到達したのは夜も大分遅かった。③変形チムニー下の事故で、上田・角田先輩をはじめ、皆さんにご迷惑をお掛けした。コールの後、対面の滝沢2スラを墜落していった高崎パーティーが目に残る。

氏名：斉藤雄二（昭和41年卒）

- 山行：①1958年8月：高校1年の時の夏合宿・横尾定着
 ②1962年8月：大学1年の時の夏合宿・平パーティー
 ③1965年3月：大学4年の時の春山合宿・南アルプス
 全山縦走

思い出：①豪雨で梓川が氾濫し、上高地に災害救助法が適用された。横尾の丸木橋を死ぬ思いで渡り、島々まで歩いて帰りました。②新人の時の夏合宿。平から五色ヶ原に登った日、立山をピストン、双六から笠ヶ岳をピストン、タフな山行でした。③光岳から聖岳まで縦走し、その後北岳で縦走隊を迎えるサポート。積雪期の南ア全山縦走は記録です。同年5月の部山行・雪の劔岳北方稜線も忘れ難き山行です。事実ばかりでロマンがなくて済みません。厚生官僚と揶揄されてきた所以です。



▲ニルギリ北峰：ジヨムスンにて

氏名：海野俊男（昭和41年卒）

- 山行：①1964年9月：単独行・飯豊山
 ②1965年5月：厚生部5月部山行・劔岳北方稜線
 ③2003年8月：欧州アルプス還暦登山・マッターホルン登頂

思い出：加藤文太郎の単独行ではありませんが、山に登るといふことで、自分の欲望を無制限に伸ばせることができるのは、単独行の最大の醍醐味だと思います。自分が好きなことや、やりたいことは頑張ることが出来ます。高齢者だって頑張る時に頑張れば、会心の登山が出来ると、これからも高みを目指したいと思います。

氏名：松浦（山本）正道（昭和42年卒）

- 山行：①1963年5月：大学1年の時の新人合宿・八ヶ岳
 ②1966年1月：大学3年の時の個人山行・鹿島槍ヶ岳
 ③2009年9月：定年後のヒマラヤトレッキング・エベレスト街道

思い出：①大学1年の八ヶ岳新人合宿は、本格的な山登りの初体験で、悔しさで涙を流して歩きました。これがバネになって心身共に鍛えられ、今日の自分の原点となった思い出深い山行です。②大学3年の正月の鹿島槍は血気盛んな頃の山で、冷池小屋でのビバークや冷体温症での地元部落への救助要請など経験しました。③定年後行ったエベレスト街道では、長年の夢のヒマラヤの初体験で、目の前にせりあがってくるプモリの姿が印象的でした。

氏名：迫田泰敏（昭和43年卒）

- 山行：①1966年8月：夏合宿・知床半島縦走
 ②1982年～83年：冬のエベレスト遠征
 ③1987年秋：チベット・チョモランマ東谷遠征

思い出：安川茂雄の「近代日本登山史」に過去の登山記録が載っていました。ペルー・アンデス

の2つの初登頂の他、1965年の積雪期の南ア・全山縦走が載っていました。これは最初の記録で、以後何隊かが続いているそうです。それと劔岳北方稜線も評価の高い山行のようです。山の会もけっこうなものでした。

氏名：齋藤延雄（昭和45年卒）

山行：①1963年1月：高校1年・八ヶ岳・阿弥陀岳南稜

②1968年3月：大学3年・春山会山行・抜戸南尾根～槍ヶ岳縦走

③1970年6月：卒業後・ヒンズークシ遠征

思い出：①阿弥陀の南稜では、頂上に着くのが遅れ、その時、月を眺めながら食べたヨーカンの味が今も忘れられません。②抜戸南尾根では、穴毛谷からの雪崩の音が一晩中鳴り響き、怖い思いをしました。③卒業しても就職せず、パキスタンとアフガニスタンの国境の山、ペギッシュ・ゾムⅡ峰（6167m）とノゴール・ゾム（5939m）に登ってきました。ノゴール・ゾムでは頂上直下で日没となり、ビバークして翌朝登頂しました。

～元気でしたね～

氏名：豊田紳二（昭和47年卒）

山行：①1969年5月：大学2年の時の個人山行・槍ヶ岳・北鎌尾根

②1969年8月：大学2年の時の夏合宿・知床縦走

③1970年3月～4月：大学3年の時の個人山行・前穂高岳・北尾根

思い出：2009年10月に五竜遠見尾根から白岳に登りました。北アルプスの稜線を歩くのは30数年振りでした。朝方は天気も良く、きれいな紅葉、懐かしい山々がよく見えました。2年生の冬山会山行、肩までの雪、斜面になると雪は頭の高さになり、スコップを使いながらラッセルした白馬の杓子岳双子尾根。3年生になる時の春山会山行、東尾根のザラメ雪の下り斜面で滑落し、ピッケルのストップで命拾いした鹿島槍。新人の時の春山会山行でバテバテになって登った爺ヶ岳、その時に1年先輩の新井さんが滑落した鹿島槍の吊尾根。白岳に着く頃には雲の中、稜線では雪がちらつき始め、冷たい雨の中で、思い出に浸っている余裕もなくなり、山の厳しさも思い出しながら、下山しました。

氏名：名達一彦（昭和50年卒）

山行：①1970年8月：高校夏合宿・朝日連峰縦走

②1973年12月：大学1年・冬合宿・蝶ヶ岳

③1974年12月：大学2年・個人山行・八ヶ岳・横岳三叉峰ルンゼ

思い出：とりわけ思い出深いのは、大学1年の時の冬山会山行です。縦走隊のサポートとして蝶ヶ岳へ。初めての冬山でした。猛烈な寒波に見舞われ、稜線付近で1週間の沈。頂上は踏めませんでした。猛吹雪の山の厳しさと妖しさ、晴れた雪山の輝かしさ、そして無事下山した時の解放感。何もかもが強い印象に残っています。亡くなった須田さんも、OBとして参加してくれました。須田さんの怪談、怖かったなあ。

氏名：里方昭彦（昭和58年卒）

山行：①1975年8月：中学生・鳳凰三山

②1980年3月：大学2年・春山会山行・爺ヶ岳東尾根～鹿島槍ヶ岳

③1980年7月：大学2年・夏合宿・北岳～光岳

思い出：①は中学3年の時に友人と登った初めての「アルプス」で、雲の切れ間に浮かび上がった北岳に強く魅かれ、その後本格的に山を始めるきっかけになりました。②は山の会新人の時に参加した初めての本格的冬山で、西風によって顔面凍傷になりました。③は南アルプスの大きさと静けさを、十分に堪能した合宿でした。その後、聖平小屋の管理人（アルバイト）として再び訪れる等、大好きな山域の一つです。



▲ビレンタンティからマチャプチャレを

望む

氏名：天野智彦（平成4年卒）

山行：①1992年2月：大学5年・アコンカグア

②2001年10月：飯豊山MTB縦走（弥平四郎～胎内）

③2008年5月：白馬～朝日岳のスキー縦走（大雪渓～蓮華温泉）

思い出：①強風に苦しんだこと、BCで知人に邂逅したこ

と、下山後の廃線になってしまったプエルトモンまでの鉄旅など、全てとても懐かしい。頂上からのアンデスの眺めは、心の原風景です。②アプローチにMTB（编者注：マウンテン・バイク）を使い、山中では担ぐ究極の人力登山。そのまま朝日連峰と高松虎毛も縦走したから、元気良かったです。③妻とテレマークを続けてきたことの集大成。柳又谷源頭や雪倉北面の滑降を思い出すと、今でも雄叫びをあげそうになります。

氏名：佐々木直之（平成17年院卒）

山行：①2002年8月：大学4年の時の夏合宿・穂高岳

②2004年8月：大学院2年の時の夏合宿・北ア全山縦走

③2005年8月：社会人1年目の夏・劔岳（室堂～劔岳～樺平）

思い出：①4年生で山の会に入り、初めての夏合宿。濱田先生引率の元、登山の楽しさや北アルプスの魅力を知った山行です。②「日本海まで」を合言葉に歩き続けた2週間。半年間、様々な準備を重ねての挑戦でしたが、大キレットの前日は眠れませんでした。③劔岳の圧倒的なスケールと黒部の奥深さを知り、「八ッ峰縦走」「北方稜線」という大きな目標が出来ました。

氏名：中村達（H18年院卒）

山行：①2003年8月：大学2年の時の夏合宿・北ア縦走（立山～槍ヶ岳）

②2004年3月：大学2年の時の会山行・八ヶ岳・赤岳

③2004年9月：大学3年の時の個人山行・立山及び劔岳

思い出：①2年入部だった私のデビュー戦。途中高熱で小屋に担ぎこまれる等、トラブルもありましたが、最後に霧の中から槍のピークが現れた時の感動は、忘れられません。②井村・渡辺先輩ご指導のもと、憧れのピークへ。夏とは違う景色、達成感で新たな山の魅力に気付いた山行でした。③剣沢で、台風の中、1日ビバーク。山本先輩と、テント浸水の恐怖のなか、「黒部の太陽」を読みつつ語り合ったのは、一生の思い出ですね。

2012年の「乗鞍高原スキー」のご案内

恒例の山とスキーの会の「乗鞍高原スキー」を以下の通り企画しております。貸し切りバスで車内で歓談しながら、にぎり湯の宿に泊って、宿の前が直ぐスキー場という楽しいスキー・ツアーです。お誘い合わせのうえご参加ください。

○日 程：2012年2月24日（金） 東京駅丸の内北口19：00出発、当日夜23：00頃温泉宿到着
2月26日（日） 13：00温泉宿出発、 19：00頃東京駅着

○宿泊旅館：みたけ荘 にぎり湯の宿

〒390-1513 長野県松本市安曇4291-1 乗鞍高原温泉 Tel 0263-93-2016

○会 費：大人32,000円、子供（小学生以下） 24,000円

○会費振込先：三井住友銀行 日比谷支店 普通預金口座 1750869

口座名義：山とスキーの会 市村栄一

○申し込み&連絡先：山とスキーの会 市村栄一

〒105-0004東京都港区新橋5-7-2 Tel 03-3436-3237 Fax 03-3436-3238

「大野山・春のハイキング」のご案内

2012年春のハイキングは、JR御殿場線の山北駅と谷峨駅の間にある700mそここの山、大野山を企画致しました。山頂一帯に牧場が広がり牧歌的な情緒があふれる家族向きの山です。是非皆様ご夫婦で、お孫さんも一緒にご参加下さい。下山後は、山北駅近くに新しく出来ました日帰り温泉（さくらの湯）への立ち寄りも予定しております。

○日 時：2012年4月14日（土） 10時集合

○集合場所：小田急線新松田駅 改札口

○コ ー ス：新松田駅（バス10:35発）→大野山入口バス停（11:00着）→共和小学校（11:40着）

→大野山（12:50着・13:30発）→嵐（13:50）→JR御殿場線谷峨駅（15:10着） 解散

* 解散後、希望される方々には、隣り駅（山北駅）近くの「山北町健康福祉センターさくらの湯」にご案内する予定です。

○昼食・飲み物 各自ご持参下さい。

○その他 小雨決行

○申込・問合先：齋藤延雄 045-831-1792 yuiyui@zg7.so-net.ne.jp 080-4005-3934

松村幹雄 03-3325-9695 mykof04@s5.dion.ne.jp 080-5175-9695

編集後記

明けましておめでとうございます。昨年は東日本大震災、台風による水害等、大変な災害の年でした。本年は明るい1年であってほしいと思います。今回は「創立55周年記念企画：わが忘れがたき山行」を特集させていただきました。また佐久間正昭さんには、こちらから強くお願いして、「アンナプルナ・ダウラギリを望むトレッキング」を投稿してもらいました。このトレッキングには奥様も参加されており、奥様のスケッチを「忘れがたき山行」の挿絵に使わせてもらいました。皆様の投稿をお待ちしております。

齊藤雄二（S41年卒）記